

美守隊の活動

— 現場をより美しく、やさしく見守る女性パトロール隊 —

佐藤 香^{*1}・高倉 真希子^{*2}・松下 玲子^{*3}・本間 美湖^{*4}

女性社員のみで構成され、生産現場における職場環境・安全衛生パトロール、見学会の支援などを主な活動とする「美守隊」について、その活動概要を記す。具体的には、美守隊の概要を示しつつ、安全衛生パトロールにおける一連の活動の流れを紹介する。また、美守隊の発足経緯や活動意義、組織を継続的に運用するために取り組んでいる内容にも触れる。さらに、自社にて美守隊に対する意識・評価調査を行い、美守隊活動について評価・分析を行ったので、その内容も簡単に紹介する。

キーワード：女性、安全・衛生、パトロール

1. はじめに

“私たち女性社員も現場に行ってみよう” このひと言が美守隊結成のきっかけとなった。今まで生産現場を経験したことがなく、デスクワークを主に行っている女性社員にとって、生産現場は想像の世界でしかなかった。しかしながら、実際に構造物を造る姿、完成していく過程を知ること、日常の主業務に役立つことや、会社にとっても役立つことがあるかもしれない。現場に行くなら、何か目的をもって現場に行こう。何か女性目線の新たな取り組みとして活動してみよう。そのような思いで2014年の春に美守隊を発足した。「美守隊」という名称であるが、「現場をより美しく、やさしく見守る女性パトロール隊」と「安全を守る」という意味をもっている。

2. 美守隊の活動意義と活動状況について

2.1 活動意義

関係部署による安全パトロールは通常業務として行われているが、美守隊による職場環境・安全衛生パトロール（以下、美守隊パトロールと称す。）では、男性とは違う「女性の目線」と「地域の方と同じ目線」を意識して、生産現場の周辺環境の保全や安全衛生を改善することを目的とした活動を行っている。生産現場事務所からトイレ、喫煙所に至るまでをくまなくチェックし、現場では足場通路

の歩きやすさや整理整頓状況など、生産現場の社員が気付きにくい箇所を厳しく指摘しつつ、好事例などもしっかりと評価することなどが美守隊の使命である。

2.2 組織について

会社には美守隊の運営方針が存在し、本社土木事業本部が組織を統括している。この運営方針では、「女性社員の生産現場など理解の醸成を期待し、結果女性活躍推進に寄与することを目指す」ものとして目的を掲げている。美守隊の隊員（以下、隊員と称す。）は、本支店の事務・技術職の女性社員により構成され、2019年11月現在で50名の組織である。

隊員は安全教育を受講し、生産現場に従事する社員と同じ基礎知識の習得に努めている。主な安全教育の内容は、「安全関係法令の理解」や「法改正の概要」、最近では「フルハーネスの特別教育」も受講して、法の改正に必要な安全知識も習得している。また、社内外で発生した災害事例から安全知識を向上するべく継続教育を実施している。

2.3 活動状況

美守隊は、発足以来2019年11月までに133件の美守隊パトロール活動を行ってきた（表-1）。また、社内の活動のみに留まらず、その活動内容を、新聞・雑誌などへ掲載して活動のアピールを実施してきた。また、その活動が評価され社外表彰を受けるなど、社内だけではなく外部においても高く評価されており、知名度も高いと自負している。



^{*1} Kaori SATO

オリエンタル白石（株）
東北支店工務部



^{*2} Makiko TAKAKURA

オリエンタル白石（株）
福岡支店管理部



^{*3} Reiko MATSUSHITA

オリエンタル白石（株）
東京支店管理部



^{*4} Miko HONMA

オリエンタル白石（株）
東京支店技術部



危険ゼロ
キャンペーン

安全作業で
1・2・3月
いたみ
なし!

安全対策

危険ゼロ!
キャンペーン

4・5・6月

安全対策

危険ゼロ!
キャンペーン

熱中症予防
キャンペーン

7・8・9月

水分・塩分
しっかり補給!

労働災害
撲滅運動

10・11・12月
闘い命キャンペーン

アリエンタル白石温泉株式会社
電話番号 015-583-0000

アリエンタル白石温泉株式会社
電話番号 015-583-0000

アリエンタル白石温泉株式会社
電話番号 015-583-0000

アリエンタル白石温泉株式会社
電話番号 015-583-0000

危険ゼロキャンペーン
安全作業で
1・2・3なし!

仕込みましょう!!
4・5・6月
安心・安全

熱中症予防
キャンペーン
7・8・9月
シャット・アウト

© 川崎重工業株式会社 安全推進部

65

表 - 2 発表・表彰履歴

年月	項目	発表・表彰名	会場等
2015/5	社外発表	女性目線による安全パトロール「美守隊」の効果	女性活躍推進をテーマにしたビジネス交流会
2015/9	社外表彰	安全に関する体験・提案文佳作受賞	東北地方工事安全施工推進大会（SAFETY2015）
2015/10	社内表彰	社長功労表彰	オリエンタル白石（株）業務報告会
2016/9	社外発表・表彰	女性社員による安全パトロール「美守隊」の効果	全国建設業労働災害防止大会
2016/10	社内表彰	支店長表彰	オリエンタル白石（株）業務報告会
2017/6	社外発表	女性社員による安全パトロール「美守隊」の効果	第32回首都高速道路工事に係わる安全管理講習会
2017/11	社外発表	女性目線での現場点検「美守隊」の取り組み	土佐国道事務所工事等安全協議会定例会議
2017/12	社外発表	女性社員による安全パトロール「美守隊」の効果	大分川ダム工事事務所建設工事安全対策講習会
2018/10	社内表彰	支店長表彰	オリエンタル白石（株）業務報告会



写真 - 4 発注者・同業他社を含む安全協議会

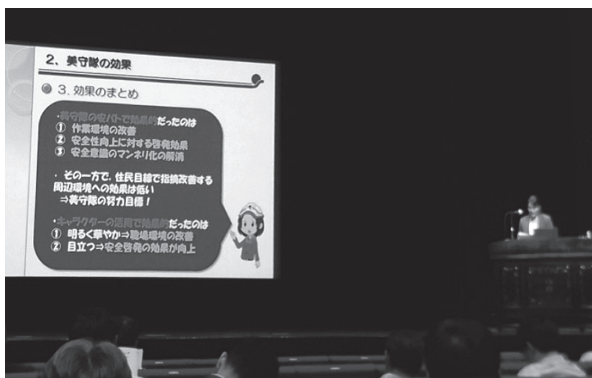


写真 - 5 首都高速道路工事に関わる安全管理講習会

3.2 新聞・雑誌掲載履歴

表 - 3 に新聞・雑誌掲載履歴を示す。美守隊活動が新聞・雑誌に掲載された件数は、2015 年で 3 件、2016 年で 1 件、2017 年で 1 件であったが、2018 年以降の取材件数は大幅に増え、2018 年で 8 件、2019 年で 5 件となり、総計 18 件となっている。また、取材元は北海道・東北から九州まで、全国の新聞社から取材を受けている（図 - 3、4、5）。新聞社の意見を聞いてみると、「普段目が見えない細かい点もよく見られている」、「報告書の完成度が高く、見ていて楽しい」との高評価を得られた。一方で、取材を受ける美守隊の意見では「活動状況を沢山の人の知ってもらえる」



写真 - 6 全国建設業労働災害防止大会

表 - 3 新聞・雑誌掲載履歴

掲載年月	新聞・雑誌名	現場名等
2015/2	建設通信新聞	佐賀 497 号高瀬橋上部工工事
2015/12	建設新聞（岩手面）	豊間根こ線橋上部工工事
2015/12	日刊建設工業新聞	豊間根こ線橋上部工工事
2016/11	安全スタッフ 2269 号	全国建設業労働災害防止大会
2017/8	建通新聞（岡山版）	鳥取自動車道佐潤橋 PC 上部工工事
2018/1	北海道建設新聞	275 号江別市新石狩大橋 P6 橋脚ほか一連工工事
2018/1	建設通信新聞	275 号江別市新石狩大橋 P6 橋脚ほか一連工工事
2018/1	北海道通信	275 号江別市新石狩大橋 P6 橋脚ほか一連工工事
2018/1	北海道通信	一般国道 38 号清水町小林橋上部工工事
2018/1	北海道建設新聞	一般国道 38 号清水町小林橋上部工工事
2018/7	建設新聞（ニュース面）	片浜地区上部工工事
2018/9	建設新聞（ニュース面）	近内川橋外上部工工事
2018/11	建設新聞（山形面）	高玉橋外上部工工事
2019/1	建設新聞（山形面）	鮭川地区下部工工事
2019/7	建設新聞（岩手面）	宝来橋上部工工事
2019/7	建設通信新聞	宝来橋上部工工事
2019/10	建設新聞（山形面）	大石田村山 IC 橋外上部工工事
2019/11	建設新聞（岩手面）	国道 45 号玉川大橋上部工工事



図 - 3 建設通信新聞 2015 年 2 月 24 日掲載

「記者の方と話をすることで活動の意義を再確認できた」、「新聞に掲載されたおかげで他社から依頼があり、合同パトロールができた」との意見があり、活動状況の PR 以外に隊員のモチベーションが向上した。

3.3 現場見学会支援履歴

表 - 4 に現場見学会の支援件数を示す。美守隊は生産現場近隣の小中学校を対象とした見学会にも支援参加しており、見学者からは好評であった。また、2018 年 8 月の日本建設連業会主催のけんせつ小町活躍現場見学会においても支援参加している（写真 - 7）。「女性が現場にいる



図 - 4 北海道建設新聞 2018年1月18日付



図 - 5 建設新聞 2019年10月25日掲載

と場が和むと感じた」,「小学生の自分たちにも分かりやすい言葉で説明をしてくれた」,「どこから見たらいいかわからない時に声がけをしてくれた」などの声をいただいた。このように、美守隊によって見学者により近い目線の対応、女性ならではの和やかな雰囲気と気配を提供することが可能であり、美守隊の見学会支援は非常に有効であると考えられる。

4. 美守隊活動の詳細について

4.1 美守隊の具体的な活動内容と要点

美守隊の活動は、単に生産現場の美守隊パトロールを実施するものではない。隊員が該当する生産現場の工事概要などを事前に説明を受けるところからはじまり、美守隊パトロールの実施後には、作成した報告書を当社ホームページへ掲載するところが特徴的である。

美守隊の活動では、参加する隊員間で美守隊としての活動経験に左右されることなく、ある一定以上の活動を円滑に実施できるよう、標準化を図っている。すなわち、図 - 6 に示す美守隊パトロールフローと各実施項目における活動要点や要領を確立し運用している。

表 - 4 現場見学会支援件数 (単位: 件)

	本社	東京	東北	大阪	福岡	合計
2019 年	4	4	—	2	—	10
2018 年	1	1	—	2	—	4
2017 年	—	—	2	8	—	10
2016 年	—	—	1	3	1	5
2015 年	—	—	1	1	1	3
2014 年	—	—	—	—	1	1
合計	5	5	4	16	3	33



写真 - 7 けんせつ小町活躍現場見学会

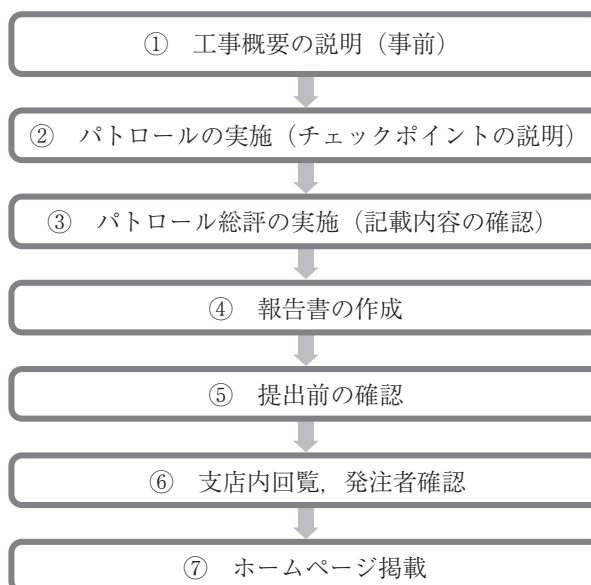


図 - 6 美守隊パトロールフロー

美守隊の一連の活動を図 - 6 を用いて説明する。まず、美守隊活動を行う隊員に対し、① 随行者または現場担当者が事前に工事概要の説明を行い、② 美守隊パトロール実施時にチェックポイントを説明する。これは、事前の概要説明で工事内容を把握し、当日工事担当者から改めて詳細な説明を受けることで美守隊パトロールのポイントを確実に押さえることや、隊員自身の生産現場の理解度を効率良く上げることが目的としている。次に、美守隊パトロー

ル直後に、③総評を実施し、その場で報告書の記載内容を決定する。運用当初の美守隊パトロールでは、後日、隊員が職場に戻り報告書を考案・作成していたが、報告書はホームページへ掲載するため、幾度も生産現場担当者と隊員間で審議する場面が多かった。そのため、隊員が通常業務と並行しながら進めるには負担が大きかった。そこで、生産現場担当者と隊員が同席する③総評時に美守隊パトロールの指摘事項、好事例、報告書への記載の内容などを決定するように改善した。これによって、生産現場と美守隊間での認識のずれをその場で修正・解消し、報告書作成に要する時間を削減し、隊員への業量的、精神的負担を軽減する。そのうち、④報告書を作成、⑤提出前の内容確認、⑥支店内回覧・発注者確認を経て、当社事業活動のひとつとして⑦ホームページ¹⁾に掲載する。以上が美守隊パトロールの一連の流れである。

4.2 活動の成果物

美守隊パトロールでは、関係部署がパトロール時に使用する安全衛生パトロールチェックリストに加えて、「職場環境面」や「地域住民目線」などのチェック項目を追加した独自のチェックリストを用いて運用している。また、美守隊パトロール後はチェックリストを基に報告書を作成している。報告書の記載例を図-7、8、9に示す。報告書は単に文字と指摘事項の写真で構成されるものではなく、隊員が内容の構成、デザインなどの配置・配色を考案して作成しており、現場概要を示しつつ、隊員の参加記録も加味しながら、指摘事項や好事例をピックアップし、必要に応じてイベント事についても触れるなど、安全衛生パトロールの報告書の枠を超えた内容となっている。この報告書は、チェックリストと同様に美守隊オリジナルのものとなる。

5. 美守隊活動の貢献度の評価

本章では2019年2月に社内で行った美守隊活動に関する意識調査をもとに、本活動に対する社内からの評価を分析した内容を示す。

5.1 意識調査の概要

美守隊の活動には、隊員だけでなく、美守隊パトロールを受け入れる生産現場、隊員の所属部署、美守隊組織を運営する本社土木事業本部および支店工事部・安全室など多くの社員が携わっている。美守隊活動を円滑に運営するためには、隊員の意見だけでなく、活動場所となる生産現場の社員や活動を支援する社員それぞれの意見をお互いに理解しあうことが重要である。そこで、全社員を対象に美守隊活動に関する意識調査を実施し、結果を社内でも周知することにより相互理解の促進を図った。

調査方法は、インターネットを利用したアンケートフォームを用いた。回答形式は、回答の傾向を定量化しやすい選択式を中心に、具体的・多面的な意見を抽出できるように記述式も含めた。回答率は、男性が57% (367/644名)、女性が76% (48/63名)、全体で59% (415/707名)であった。



図-7 美守隊パトロール報告書例1



図-8 美守隊パトロール報告書例2



図-9 美守隊パトロール報告書例3

5.2 活動がもたらす効果に対する社内の評価

(1) 調査の内容

美守隊活動の運営方針には活動の目的として、①職場環境改善、②安全活動への貢献、③当社生産現場などの理解の醸成、④女性活躍推進への寄与、⑤企業のイメージアップの5つが掲げられている。これらの活動目的に対して、美守隊活動が貢献できているかどうかを評価するため、それぞれ5段階で評価する方式とした。また選択肢には、それぞれの活動目的の主旨が理解できない、納得でき

ないという意見をくみ取れるよう「分からない、または判断できない」も含めた。

(2) 結果および考察

美守隊活動の貢献度に関する評価を図-10に示す。評価3以上を高評価と定義した場合、その割合は、すべての活動目的で70%以上という結果であった。したがって、大多数の回答者が美守隊活動が活動目的に対して貢献していると評価している。とくに、活動目的⑤企業のイメージアップについて高評価の割合は90.1%（男性91.6%、女性79.2%）と最も高く、前述した新聞掲載や社内外の表彰が社内に広く周知されている裏付けとなっている。また、パトロール実施報告書に発注者の高評価が記されることが多く、社員が企業のイメージアップ効果を実感することができるためと考えられる。次に、高評価の割合が2番目に高かった、活動目的①職場環境改善は86.8%（男性87.6%、女性81.3%）であり、美守隊にしかできない女性目線・周辺住民の目線を意識した指摘が高評価の要因と考える。具体的にはトイレや更衣室、生産現場・事務所の整理整頓、喫煙場所、救急箱の中身といった一般的な安全パトロールでは点検対象となりにくい項目で改善を促すことである。パトロールを受けた生産現場からは、美守隊のきめ細かい視点、高い衛生意識、周辺住民に対する気配りなどによる指摘が職場環境改善に寄与しているという声が多く挙がった。

5.3 美守隊活動の今後に関するアンケート結果

(1) 調査の内容

社員が美守隊の活動を今後どのように行えば良いとらえているのかを把握するため、活動の今後の方針に関する選択肢の中から、回答者の意見と合致するものをすべて選んでもらった。選択肢は、図-11に示すように、今後の活動方針（継続または中止）に加えてその理由を具体的に示した。選択肢を考える際には、活動の継続に前向きなもの、条件付きで継続するもの、中止すべきものを3つずつ用意することで選択の公平性に配慮した。また、記述式による自由意見を併設することで、選択肢にない意見や問題点、改善策などの抽出を試みた。

(2) 結果および考察

活動の継続に前向きな意見の合計は全回答数割合で67.4%（男性69.6%、女性51.0%）であり、条件付きの継続を加えると94.8%（男性96.8%、女性80.2%）に達し、ほぼすべての回答者が活動の継続を求めている。前述の活動目的に対する評価が総じて高かったことから推測できるように、活動の継続を求める割合も高い。

自由意見では「活動は大変有意義だ」、「報告書の内容が充実している」など活動の評価する意見や、「現場の現実を見てほしい」、「当社が施工会社であることを再認識する良い機会だ」など活動目的③の当社生産現場などの理解を求める意見が多かった。

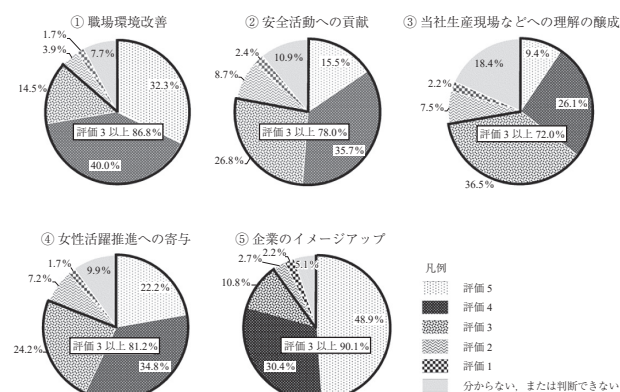


図-10 美守隊活動がもたらす効果に対する評価

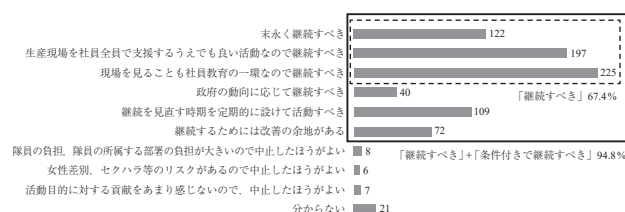


図-11 美守隊活動の今後についての選択肢

一方で、男女間の回答割合には差異が生じた。とくに、活動を中止すべきとする割合は、男性が1.1%に対し女性は13.5%であった。

自由意見では「報告書の作成が負担」、「活動が女性差別にならないか不安」などの問題点や「女性社員に限定せず、男性の内勤者や事務職も同行してはどうか」、「女性が快く活動に参加できるように、ほかの社員が理解すべきだ」、「事務系と技術系の隊員をバランスよく配置したほうが良い」などの改善策も上がった。

6. おわりに

本報文は民間企業で独自に実施してきた美守隊の活動事例を紹介した。今後も生産現場の安全・衛生面をより一層に改善することや、女性社員のさらなる活躍や成長できる場となるよう活動を精査していく。一方で、当社以外の組織においても同様な活動を行っている事例は多い。本報文がすでに運用を開始している、またはこれから運用を開始する組織などに対して、その活動がより良いものになり、さらには広く普及することを期待している。

参考文献

- 1) 美守隊：オリエンタル白石(株)ホームページ、
<http://www.orsc.co.jp/mimamori/>（閲覧日：2019/12/16）

【2020年1月6日受付】